

平成28年度「全国学力・学習状況調査」の結果 —分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

区名	港
学校名	大阪市立港晴小学校
学校長名	武林 富二男

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成28年4月19日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育局では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育局の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科も含め、総合的に子どもの学力向上を目指しています。学校の現状や取組の参考にしていただきたいと思います。

1 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準向上の観点から、児童の学力や学習状況を継続的に把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

- (1) 教科に関する調査（国語、算数）
 - ・主として「知識」に関する問題（A問題）
 - ・主として「活用」に関する問題（B問題）

- (2) 質問紙調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・港晴小学校では、第6学年 31名

平成28年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

国語科に関しては、国語A・国語Bとも平均正答率は昨年度よりも上昇傾向にある。しかし、国語Aの平均無答率が全国平均と比べ差が大きくなっていることから、低得点集団児童の集中力を持続させることや制限時間内に解答を終えることが課題と考えられる。

算数科に関しては、本校で算数科を研究教科としたH25と本年度H28を比べると、算数Aの全国平均との差は▲10.5→▲5.9、算数Bでは▲13.2→▲2.8と確実に縮まっている。少しずつではあるが、問題解決型学習・協働学習を柱とした本校の研究の成果が表れてきている。

国語と算数を総合的に見ていくと、本校の正答率の平均は全国平均と比べ▲11.7→▲5.5となっており、子どもたちの学力が確実に身についてきていると言える。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

国語・算数における正答率は、全国や大阪市を各領域でほとんどが下回っている。

【国語A】正答率が全国平均より、8.4p低く、平均無答率が全国平均より、7.2p高い結果となっている。領域別にみると、全国平均より「話すこと・聞くこと」の領域が8.2p「書くこと」の領域が18.0p「言語事項」の領域が7.6p低い。単学級であり幼児期より同じ集団で生活をしている本学年の児童達は、さまざまな場面の会話において、ごく少ない単語でも意思の疎通ができてしまう面があり「話すこと・聞くこと」の力を十分に伸長できていない一因である。また「書くこと」も同様で、読み手の立場に立っての文章となっておらず、巧みに言葉を使って自分の思いや考えを伝える文章表現が苦手である。

【算数A】正答率が全国平均より、5.4p低い結果となっている。その中で「図形」の領域が全国平均より、6.7p高い。これは昨年度、本学年での校内授業研究において「図形」の領域での授業を行ったことの成果が表れたと考える。

「数量」の領域では、全国平均より【算数A】で10.4p【算数B】で5.8p低い。これは、昨年度末の本校の研究のまとめにおいて課題とした領域であり、本年度の校内研究においても「数量」の領域に重点を置くこととなったが、その取り組みの成果がまだ表れておらず、今後も指導を継続していく必要がある。

質問紙調査より

児童質問紙の「国語の授業はよく分かりますか」では否定的な回答が25.9pであったのに対し「算数の授業はよく分かりますか」では否定的な回答が6.4pでしかなかった。子どもたちは国語科の学習に対してやや苦手意識を持っていることが分かった。また「友達の話聞くこと」に関しての96.8pの肯定的な回答に対し「自分の意見を発表すること」に関しては肯定的な回答が54.8pに留まった。学習規律の徹底や、習熟度別少人数授業の実施により「聞く」ことに関しての意識は高まってきているが、自分の言葉で「話す」ことに関しては課題がある。

今後の取組

聞くことに関しての意識は高まっていることから、今後は自分の考えを相手に伝えることができるようになる手立てが必要である。本校の研究主題である、協働学習をさらに推進し、習熟度別少人数授業では、よりきめ細やかな指導の充実を図っていく。そして、本年度よりタブレット端末や大型モニター等のICT機器が設置された。子どもたちは、ICT機器を使った学習に意欲的に取り組んでおり、授業での効果的な活用を進めていくことで子どもたちの学力が高まっていくと考える。